

「2学期終業式」(令和3年12月27日(月))

宮城県・柴田町立船岡中学校 校長

2 学期終業式(23日(木))「冬休み中も計画的な学習を」

先週23日、2学期の終業式を放送により行いました。式では、「2学期の頑張りが素晴らしかったこと」と「冬休み中も計画的に学習してほしいこと」を話しました。また、国際理解教育の観点から、祖国ルワンダの教育のために活動している福島県在住の方からうかがった体験談を、生徒に伝えました。ルワンダ内戦時の難民キャンプで「たすけてください」と書いたひらがながきっかけで日本語の通訳を頼まれるなど、以前、日本で教えてもらったひらがなが人生を変えたという実話を、生徒は真剣に聞いていました。

その後、学年と生徒会執行部の各代表生徒からは、2学期の行事をとおして、クラス、学年、学校の一体感が感じられたことや仲間の頑張りに励まされ、支えられてクラス全体が成長できたこと、今年の反省を踏まえた来年の目標などが発表されました。

生徒指導担当からは、命の大切さ、自転車等の事故防止、インターネットやSNS上のトラブル回避等、冬休みの生活の注意事項や新年に向けて生徒に期待することを話しました。有意義な冬休みとなることを願っております。



放送による終業式 代表生徒による所感発表の様子です。



冬休み前の学年集会(22日、左から3年、2年、1年) 2学期の学習、生活、行事等の振り返りや、冬休みや3学期に期待すること、希望進路実現に向けて取り組むべきことなどについて話しました。



町長及び青少年のための柴田町民会議の皆様によるあいさつ運動(22日) 前日に引き続き、生徒会執行部も一緒にあいさつ運動に参加させていただきました。写真中央は、あいさつ運動前の顔合わせの場面。

◆◆◆◆【読書案内】◆◆◆◆

服部正也『ルワンダ中央銀行総裁日記』

(1972年、新書298ページ) 終業式で伝えたルワンダの話に刺激され、自宅の本棚から本書を取り出してきました。

日本銀行に勤務していた著者は、国際通貨基金の要請を受け、1965年から6年間、アフリカ中央部に位置するルワンダの中央銀行総裁を務めました。財政と国際収支が恒常的に赤字であったルワンダは、著者が勤務していた6年間で、着実に発展への道を歩み始めました。成功例はたくさんありますが、その中でバス路線を整備する話

(p.262～)には、胸が躍りました。日産ディーゼル社の58人乗りのバス20台がすべての路線で運航されるようになったとき、ルワンダの人たちは狂喜したといいます。バスが毎日ダイヤどおりに正確に運行されるようになり、乗客は著しく増えたといいます。その陰には日本から派遣された方々の苦勞があり、その働きぶりに胸が熱くなりました。

先日の講演の方の話によると、日本のバスはルワンダの人にとっても人気があり、日本からルワンダに大型バスが届くと、それだけで大きなニュースになるということでした。



校庭工事(23日) 水はけ改良のための暗渠(あんきょ)埋設。